

地球史「千葉時代」誕生へ



学会の審査通過

ほかにイタリヤの2カ所の地層にちなんだ名称も申請され投票となったが、千葉県市原市で見つかった77万年前の地層をもとにした「千葉時代」が6割以上の支持で選ばれた。46億年に及ぶ地球の歴史は、地層中の化石などから決める地質年代で分け、恐

日本名、地質年代に初採用

国立極地研究所は13日、地球の歴史のうち77万〜12万6千年前を「チバニアン（千葉時代）」と名付けるための申請が、国際学会の1次審査を通過したと発表しました。審査は続くが、結論が覆った前例はほとんどなく、来年中に正式に決まるとみられる。地質年代に日本にちなんだ名称が付くのは初めて。

77万年前に地球の磁気の向きが逆転した跡が良好な状態で残る千葉県市原市の地層。地質年代で初めて日本にちなんだ名称「チバニアン」を付けられる見通しとなった。13日午後



地球史に千葉時代を意味する「チバニアン」の名前が刻まれることが、ほぼ確実となった。日本チームが推す千葉県市原市の地層は、地球が持つ磁場が77万年前に逆転した変化がはっきりと読み取れるのが最大の特長。評価の重要なポイントとされるこのデータで、ライバルのイタリヤの地層に差をつけた。地球には磁石の性質があり地磁気と呼ばれる。現在は北極がS極、南極がN極の向きだが、過去360万年間に向きが11回逆転しており、77万年前が最後の逆転とされている。市原市の地層の中には、当時の磁場の状態が残った鉱物のほか、

77万年前の磁場逆転示す 豊富な鉱物、化石に評価

地層が堆積した時代や気候を示す微生物の化石・火山灰も多く含まれていた。長い年月をかけて地層が途切れずに積み重ねられており、その時代に地磁気の逆転が起きたことをはっきりと読み取れる。イタリヤが申請していた2カ所の地層はこのデータが不十分といい、日本チームは「地磁気は妥当なし」と自信を見せていた。審査を通過する条件には「地層へのアクセスの良さ」や「地層ができた時代の環境の変化が分かる微生物や花粉の化石が豊富」などもあり、イタリヤはこれらの条件では有利とみられていたが、日本チームも豊富なデータをそろえ

この地層はかつて海底にあったところに積もり、その後盛りに上って陸地になり、市原市を流れる養老川沿いに現れている。今回通過したのは作業部会の1次審査。票が僅差ながら決選投票になる可能性もあったが、1回で決着した。今後、国際地質科学連合が実施する3回の審査を経て正式に認定される。

名前【 】

① 地球の歴史に「チバニアン(千葉時代)」と名付けるための申請が、国際学会の1次審査を通過しましたが、このチバニアン(千葉時代)とは、いつごろのことですか？

[] 年前
~

② 千葉県市原市の地層には、どのような特長があるのですか？

[]

③ 地球には磁石の性質があるため、何と呼ばれていますか？また、現在は北極が何極で、南極が何極の向きになっていますか？

[] と呼ばれ、北極は()極で、南極は()極の向き。

④ 記事を読んでどう思いましたか。感想を書きましょう。

[]